Event

Margret Wibmer
Salon d' Amour（愛のサロン）

NPO法人「綴る」が招聘するレジデンス・アーティスト、マーガレット・ウィブマーは、1ヶ月間「イクヤマ家」にて滞在制作。ラブレターをモチーフに「愛」を探求する参加型のパフォーマンスを発表します。

料金 1,500円（Peatixにて予約受付、当日支払）
各回定員 8名・事前予約
開催日 10月19日(土)・20日(日)・21日(月)・26日(土)・27日(日)
28日(月)・11月2日(土)・3日(日)・4日(月・祝)
開演時間 12:30-/17:00- 11月4日のみ 12:30-/18:30-（1日2回）

Peatix予約

sub-document 公演
あの頃を思い出して眠りにつけばいい

創作ユニットのサブドキュメントは、昭和初期の住居兼店舗「角の家」を舞台に、「のこされたもの」をモチーフとした演劇を行います。演出・脚本は楠彩。出演は間宮一輝、川端大晴、畑昂志、弥本理央。

料金 1,500円
（Peatixにて予約受付、当日支払、イクヤマ家で整理券配布）
各回定員 12名・事前予約・当日券有り
公演日 10月26日(土)・27日(日)・11月2日(土)・3日(日)・4日(月・祝)
開演時間 14:00-/17:00-（1日2回）

Peatix予約

Cafe

展覧会会期中、イクヤマ家では下記の3店が当番制でカフェを営業いたします。

乗越

金沢市・寺町寺院群の小路にひっそり佇む町家カフェ。毎年2月に開かれる「乗越チューリップ祭り」は金沢に春の訪れを告げる恒例イベントになっています。

あさこ食堂

あさごはんとおやつ、時々よるごはんのお店。身体が喜ぶのを感じられるような、やさしくてほっとするごはんを提供しています。イクヤマ家にて不定期営業中。

Cafe Cove

能登半島地震によりお店は大きな被害を受け、現在は再建に向けた準備を進めながら、みんなの居場所であり続けるために金沢で「小さなCove」を開いています。

Access

展覧会拠点 イクヤマ家
（石川県金沢市菊川2丁目14-3）
※Googleマップ等で"イクヤマ家"と検索して
お越しいただくことをお勧めします。

・金沢駅から バス20分（バス停「思案橋」より徒歩3分）
・金沢21世紀美術館から 徒歩15分 タクシー5分
・駐車場 無し（近隣のパーキングをご利用ください）

消えつつ 生まれつつ あるところ

会期 2024年10月19日(土)～11月18日(月) 期間内の土曜日・日曜日・月曜日のみ
開場 12:00-18:00（最終受付17:30）
会場 イクヤマ家（石川県金沢市菊川2丁目14-3） お向かいの家・Kアパート・角の家・松本家
観覧料 1,500円（チケットはイクヤマ家にて販売。1枚につき1名様に限り、会期中何度でもご観覧いただけます。）
※関連イベントチケットは別途必要
主催 特定非営利活動法人綴る
助成 ハウジングアンドコミュニティ財団、Federal Ministry Republic of Austria, Arts, Culture, Civil Service and Sport
アイスタイル芸術スポーツ振興財団、澁谷学術文化スポーツ振興財団

Website https://www.tsuzuru.org/APTIVWBB/about.html
Instagram @kietsutsu_umaretsutsu
お問合わせ 中森あかね akane@suisei-art.com 電話 090-1637-6251
清水冴 shimizusaee@gmail.com デザイン 神子澤知弓

本展覧会は金沢21世紀美術館主催「すべてのものとダンスを踊って―共感のエコロジー」連携企画「もっと踊ろう！共感のエコロジー」に参加しています。

Website　Instagram

A Place That is Vanishing While Being Born

Period: October 19 (Sat.) - November 18 (Mon.)
12:00-18:00 Sat. Sun. Mon. only
Venues: Ikuyama House, Omukaino-ie, K Apartment, Kado House, Matsumoto House
Admission: 1,500 yen (Related events ticket not included)

Organizer: Nonprofit organization "Tsuzuru"
Supported by: Housing and Community Foundation, Federal Ministry Republic of Austria, Arts, Culture, Civil Service and Sport, Istyle Art and Sports Foundation, Shibuya Science, Culture and Sports Foundation

This exhibition is in collaboration with the 'Let's Dance More! An Ecology of Empathy' collaboration project 'DANCING WITH ALL: The Ecology of Empathy', organised by the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa.

NPO法人「綴る」について

金沢市菊川にある流通にのりにくい空き家について、ともに考え、使う、集まりです。地域内に点在する空き家を舞台に共有のキッチンを使ったごはん会やトークイベント、リサーチなどのさまざまな試みをおこなっています。共に空き家を考え使う「共の会」会員を随時募集しています。

綴る Website　綴る Instagram

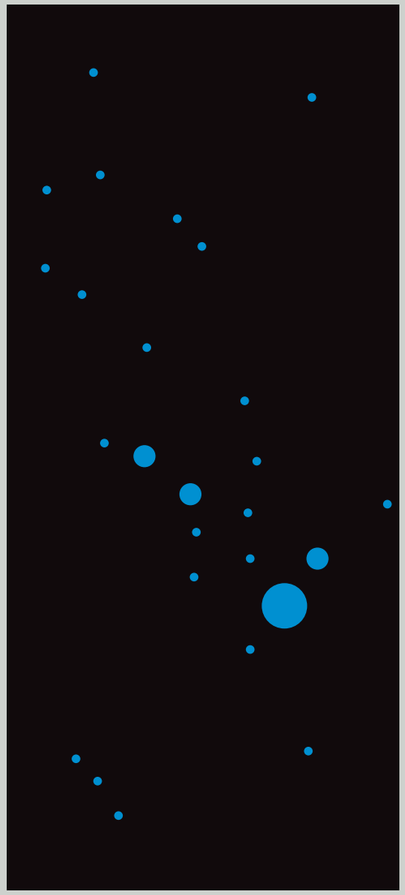
2024
10/19 sat.
11/18 mon.
期間内の土曜日・日曜日・月曜日のみ
12:00-18:00
（最終受付17:30）

Admission 1,500円

Venues イクヤマ家
（石川県金沢市菊川2丁目14-3）
お向かいの家・Kアパート
角の家・松本家

Artists（in alphabetical order）
Akane Nakamori
Hirokazu Tanaka
Hirotaka Sato
Kazumi Shimode
Kuniko Donen
Margret Wibmer
Nik van der Giesen
O33
Sae Shimizu
sub-document

主催：特定非営利活動法人綴る
助成：ハウジングアンドコミュニティ財団
Federal Ministry Republic of Austria
Arts, Culture, Civil Service and Sport
アイスタイル芸術スポーツ振興財団
澁谷学術文化スポーツ振興財団



A Place That is Vanishing While Being Born
消えつつ生まれつつあるところ

撮影：Nik van der Giesen

A Place That is Vanishing While Being Born

消えつつ生まれつつあるところ

植物には、発芽し、成長し、開花を経て、種子を残し、枯死、休眠するというサイクルがあります。本展では、菊川という土地に根ざす木造の空き家群を、枯死・休眠の段階にある植物として想像します。植物の生命の循環において、葉を落として枯れることが不可欠なように、空き家にもまた安らかな休息が必要なのかもしれません。

本展は空き家を活用しコミュニティの活性化を目指すNPO法人「綴る」の拠点「イクヤマ家」をはじめ、「お向かいの家」「Kアパート」「角の家」「松本家」を会場に、9名のアーティストと1グループが作品を発表します。そして芸術の創造性を通じ、植物をいたわるように、空き家やコミュニティ、自己や他者をいたわることを試みます。

植物と同じく、家もコミュニティも人間も、生まれては消え、そしてまた生まれる、という循環を辿ってきたのです。訪れた人びとは菊川の空き家群──消えつつ生まれつつあるところ──を巡り、その静かな営みのなかに、次なる生の芽吹きを予感することでしょう。

※展覧会タイトル「消えつつ生まれつつあるところ」はメキシコで舞踏家としての最期を全うした舞踏家・中嶋夏の舞台「消えつつ生まれつつあるもの」(中嶋夏と霧笛舎)から引用しています。

Plants go through a cycle of germination, growth, flowering, seed production, death, and dormancy. In this exhibition, a group of vacant houses rooted in the Kikugawa area are imagined as plants in the stages of death and dormancy. Just as the shedding of leaves and withering are essential to the cycle of plant life, vacant houses may also need a peaceful rest.

Nine artists and one group will present their works at venues such as “Ikuyama House,” the base of the NPO “Tsuzuru,” which aims to revitalize communities by utilizing vacant houses, as well as “Omukaino-ie,” “K Apartment,” “Kado House,” and “Matsumoto House.” Through artistic creativity, we will attempt to care for vacant houses and communities, self and others, just as we would care for plants.

Like plants, people, houses, communities have been following a cycle; to born, disappear, and born again. Visitors will tour the vacant houses of Kikugawa - a place that is disappearing and being born again - and will sense in this quiet activity, the budding of the next generation of life.

* The title of the exhibition, “A Place That is Vanishing While Being Born” is taken from the title of the stage performance「Something Being Vanished While Being Born」(Natsu Nakajima & Mutekisha Dance Company) by the dancer Natsu Nakajima who spent her last days as a BUTOH dancer in Mexico.

Artists in alphabetical order

Akane Nakamori
中森あかね

1962年金沢市生まれ。金沢美術工芸大学油画専攻卒業。彗星倶楽部ディレクター。金沢を拠点に作品を発表する傍らで、現代美術作家の作品を紹介してきた。近年の作品に、人間の生死と尊厳をテーマとした《喪失のポリフォニー》(2023,「記憶をほどく、編みなおす」ギャラリー無量/砺波)、金沢に暮らす高齢女性たちが自らについて物語るボイス・インスタレーション《Table Talk》(2021,「きのふいらつしつてください」横山町の家/金沢)がある。

中森あかね《Table Talk》(2021)　撮影：Nik van der Giesen

Hirokazu Tanaka
田中宏和

1998年岐阜県生まれ。金沢美術工芸大学大学院博士後期課程1年。自身のうつ病の経験から、作家と鑑賞者による言葉を介さない相互のケアの在り方を探求している。近年の作品に、瞑想的行為として造形された石の球体を並べ、静謐な空間を作る《雲を切り取る》(2022)がある。主な展覧会に「GRAY 田中宏和 個展」(2023,芸宿/金沢)、「みのかも annual 2019」(2019,美濃加茂市民ミュージアム/美濃加茂)。

田中宏和《 曇を切り取る 》(2022-) 石　撮影：池田ひらく

Hirotaka Sato
佐藤弘隆

1993年新潟県生まれ。富山大学大学院芸術文化学研究科修了。富山県在住。AIやコンピュータ、機械装置、映像、自然現象など多様なメディアを組み合わせ、現実/虚構、オリジナル/コピー、デジタル/アナログ、人間/機械など相対するものの境界や矛盾を作品化している。近年の作品には、展示室のキャプションを数分おきにハッキングする《hogehoge》(2023,「hogehoge」ギャラリー無量/砺波)や、ロボットアームが正反対の意味を持つ単語を「AはB(A is B)」の文法で書き出していく《戦争は平和》(2023)がある。

佐藤弘隆《 hogehoge 》(2023) マルチメディア・インスタレーション
電子ペーパー、マイコン　撮影：柳原良平

Kazumi Shimode
下出和美

1983年石川県生まれ。金沢美術工芸大学大学院絵画専攻油画コース修了。金沢市在住。制作初期から一貫して、生い茂る植物のなかに佇む子どもや小動物をモチーフとして描いてきた。作品に描かれたものたちは、鑑賞者の内心を映し出すかのように、生きているようにも、死んでいるようにも、幸福にも不幸にも、そのどちらでもないようにも見える。近年の展覧会に、個展「鳥 はまた青ぞらを截る」(2024, HARMAS GALLERY/東京)、個展「Small breath」(2023, April shop/東京)がある。

下出和美《 不定な雲を見る(犬と亀とリス) 》(2024)

Kuniko Donen
道念邦子

1944年石川県生まれ。金沢市在住。1957年に古流柏葉会山脇紅華古流いけばな教室に入門、1967年に古流柏葉会生華広岡理魁・自由花広岡紫穂に学ぶ。1970年代より伝統にとらわれず花を自由にいけることを目指し、いけばな表現の前衛を切り拓く。近年の展覧会に、グループ展「気配−花・その色と形」(2020, 彗星倶楽部/金沢)、「きのふいらつしつてください」(2021,横山町の家/金沢)がある。

道念邦子《 かみのみち 》(1996)　撮影：池端滋

Margret Wibmer
マーガレット・ウィブマー

オーストリア・リエンツ生まれ。アムステルダム在住。日常の素材を用いたパフォーマンスやオブジェ、写真の制作を通じ、人間の根源的な感情を探求している。主な作品に、著名な哲学者や文学者などが恋人に充てた手紙を朗読して聞かせるパフォーマンス作品《Salon d'Amour(愛のサロン)》がある。2022年にはアメリカの「カルチュラル・アクティビズム」に参加し、パフォーマンス作品《スロー・ウォーク》(2022)を発表。いずれも世界各地で上演している。

Salon d' Amour' by Margret Wibmer, participative performance and artist publication. 2023 - ongoing.

Nik van der Giesen
ニック・ヴァンデルギーセン

1981年オランダ・ロッテルダム出まれ。ウィレム・デ・クーニング・アート・アカデミー(ロッテルダム)マルチメディア・デザイン卒業。2011年より東京、2018年より金沢在住。日本の自然風景や伝統的な美意識を探求し、繊細で静寂な感覚に包まれる写真作品を発表してきた。近年の作品に、令和6年能登半島地震以降の能登を撮影した《Untitled, May 2024》(2024)がある。このシリーズでは、自身にとってインスピレーションの源である能登を再訪し、震災がこの地域に与えた影響を探っている。

Nik van der Giesen 'Untitled, May 2024'

O33
オウサンサン

1993年中国・内モンゴル生まれ。金沢美術工芸大学大学院博士課程2年。少数民族として、モンゴル民族と漢民族との文化の狭間で育った背景から「あちら側でもこちら側でもない」両義的なものに関心を寄せる。牛や羊といった家畜の腸を素材に、インスタレーション作品を制作している。近年の作品には、チベット仏教に基づく輪廻の思想を反映した《うつせみ-ほうえん》(2023,「記憶をほどく、編みなおす」ギャラリー無量/砺波)、主な展覧会に「GO FOR KOGEI 2023」(2023, 岩瀬エリア・沙石/富山)がある。

O33《うつせみ-ほうえん》(2023) 羊腸　撮影：中井輪

Sae Shimizu
清水冴

1997年金沢市生まれ。金沢美術工芸大学大学院芸術学専攻修了。金沢・北京を拠点に「人間の尊さとはなにか」を探る実践として制作や展覧会のキュレーションを手掛ける。主な作品に、参加者が自分の名前を刺繍しながら名前にまつわる物語を話す《Stitch Your Name》(2022-2023, Jim Thompson Art Center/バンコク、代官山ヒルサイドフォーラム/東京、他)、主なキュレーションに、東アジアのアーティストが家族の秘密や世代間のトラウマをひもとく「記憶をほどく、編みなおす」(2023, ギャラリー無量/砺波)がある。

清水冴《 Stitch Your Name 》(2022-2023)

sub-document
サブドキュメント

北陸を中心に活動する創作ユニット。2021年結成。学生時代、金沢を拠点に演劇をしていたメンバーで構成される。金沢ナイトミュージアム2022では、大手町洋館を舞台に、出演者と観客が入り交じりながら空間を変化させていくライブインスタレーション《Re:ving record》(2022)を発表。その場所の記録や記憶から想起していく作品づくりをおこなっている。

サブドキュメント《 Re:ving record 》(2022)　撮影：トナカイ